

### ■ 生物の秩序

シヤカイハタオドリという鳥がいます。動物の中でも鳥は物理学的にも、生物学的にも非常にたけた生き物で食物連鎖においても素晴らしい特性をもっています。巣にはいくつもの鳥が住んでいて、人間のコロニー（社会共同生活）の模範がなされています。50%の雄が巣を作り、50%ほどの雌たちが卵を産んで子供を育てます。社会協調性のない雄は巣から出されてしましますが、また入ってくる入り口があり、やる気になればもう一度受け入れてもらえます。それは、外敵から身を守るためです。私たちの身近にいる燕。ひな鳥から成長して巣立ちの春には上手に巣を作ります。鳥はGPSも地図もないのに何千キロも飛んで越冬を知っており、また、求愛や、危険を知らせることを知っています。一体、なぜ知っているのでしょうか？誰からも教わることなく社会秩序を保たれています。

### ■ 天の川銀河

私たちが住んでいる天野川銀河があります。天の川銀河はらせん状になっていて、手裏剣の刃が10本ある感じで、ずっと回っています。地球はこの天の川銀河の一番果てににあります。恒星（自分で光ることができる星）=太陽があります。この太陽の周りにいるんな星がつらなり、地球は第三惑星になります。地球の隣の星は最高気温が400度、最低気温がマイナス200度になります。これでは生物は住めません。しかし、地球は北極ではマイナス80度、一番暑くても赤道直下で40度くらいにしかならず、地球の位置は絶妙な位置にあります。地球のような恒星や、単体の星が銀河の中に1000億個あり、銀河のようにつらつらしているものが1000億個あります。このすべてのものが秩序よく動いています。

### ■ エントロピーの法則

しかし、すべての形あるもの、秩序は必ず崩壊していくという法則があります。自己破壊です。すべてのものはエントロピーの法則で支配されています。たとえば、あなたの部屋をいくらきれいにしてもまた崩壊してしまう。皆さんの肌、これもエントロピーです。

### ■ 創世記三章とウイルス

ウイルスはもともと私たちの体の中にかくさんいて、体や心にも良い影響しているといわれています。しかし、ウイルスは人と共存していたのに、この中には良くないなと考えたウイルスがひとから出て行き、ほかの宿主を探るときに変異していったという説があります。ウイルスの中で変異していったのはノアの箱舟以降だといわれています。生物が沈んでウイルスが感染していき、生態系が狂っていったといわれています。創世の時代神様が作ったウイルスは完璧で、秩序のもとであり、人間がそれを管理せよと言われていました。しかし、アダムとイブが罪を犯したときから、地が呪われました。呪われたというのは、生態系のそれぞれの生き方が壊れてしまったのです。創世期の時代に、人間に与えられていた地球は素晴らしい秩序が保てており、すべてが共生され、必ず再生していました。神様の法則は負エントロピーです。しかし、人間は細胞を食べなければならなくなりました。この時からエントロピーの法則にむかったのです。

### ■ 知られない神 使徒17：29～30

使徒パウロは第二次宣教旅行でアテネの町に偶像がいっぱいなをみた時のことです。ギリシャ神話の中にゼウスをはじめ大勢の神様がいらっしゃることに気づきます。日本も、もともと知られない神をなんとかして見出そうとしてきました。そこでできたのが800万人の神です。火の神、山の神、鏡の神 etc. しかし、それは、神様がよくわからないのでひとまず人間が神様を造ったのです。それほど大勢な神様がいたら大変なことです。神様がいらっしゃるとして、もしそれをわかっていないとしたら大変な問題なのです。なぜなら、自分がわからなくなるからです。そして、神様を知らないと、コロナのようなわからない存在が怖くなります。あなたは神様をしっていますか？自分がわかっていますか？

### ■ 人の境界 使徒17：26

人間の境界はもともと私たち人間に強く任された環境だったのです。ところがその境界を人間が壊して影響を与えるようになってきました。食べてはならないといわれた木の実を食べたり、触れてはならないといわれたものまで触れたり自分ものでもないのに自分のものかのように思っただけで扱うようになったり、それによってすべての生態系が呪われていったのが人間の歴史です。そして、それによって、人間は生活に支障をきたしています。その支障をきたした私たちが、今日のパウロの記事から学ぶことができることは、自らが、すべての中心で動いているように見えるのですが、私たちがすべてのものの中で、動いているだけなのです。パウロは福音を伝える中で、聞く人と聞かない人がいるのを見てきました。その中で、ずっと追いかけてくるユダヤ人を

この17章でも目の前にします。私たちが人生を生きようとするところのウイルスのように、本当は仲間であった人達が私たちの人生を攻撃するのです。どう付き合うかをパウロは私たちに伝えています。

17：31

創世の時代に壊れた秩序は死を解決することによって解決をもたらすのです

### ■ 神様の法則は負エントロピー

すべての被造物はもともとエントロピーの法則ではなくて負のエントロピーという力を持っていて、元の形に戻ろうとするのです。自らの生き方を選ぶか考えたいのです。私たちの人生の多くのものは形あるものはみな壊れるという諦めの境地から判断していきます。いつかはなくなるのだからという不安の中で、自らのものを少しでも得ようとしします。でも、必ず、後から来るものがそれを壊そうとします。私たちはそれによって傷を受けます。傷を受けた私たちがどう判断するかです。ウイルスは私たちの傷に侵入してきます。わたしたちが生きる力を失うのは歳のせいでしょうか、それとも病気によるのでしょうか。“あなたが魂の上で幸いを得ているようにすべての上で幸いを得ると健やかであることを願う”魂（知識・意思・感情）のうえで幸いを得ると全てで幸いになる。ということ。すると私たちの肉体的病はどこから来るのかという、過去に基づく傷からくるのです。食べ物だけ気を付ければいいのか、宗教をやればいいのか神様だけについていけば健康なのか。そんなことは聖書は書いていません。「神のものを神に返す」「カイザルのものをカイザルに返す」「愛し合うこと」このことをとおして互いに健やかになると聖書は言っています。あなたは愛していますか。アダムとイブが初めに起こしたことは愛する人を傷つける痛みだったのです。それが今まで継承されてきました。私たちが多くの影響を与えている、また受けているのは近い家族がほとんどです。そして、ある時は同じ職場の仲間が憎しみが生じ、傷つき人生をダメにして心を病むこともあるでしょう。嫉妬にかられたユダヤ人たちがパウロたちを追ってきて、町にいた悪者たちを集めて暴動を起こさせ、やってもないことのために訴え、彼らをかかまって助けたテサロニケの人たちからも罰金を取りました。いつの時代もひとは傷ついています。この時代に私たちがやるべきことがあります。

### ■ 聴いて探る礼拝

あなたの心の中を探らないといけません。あなたは傷をもったまま生きてはいけません。十字架に架かってあなたの痛みを背負ったすべての理由の根源にあなたの過去の傷の解決というものがあったのです。だから、与えられた時間を精一杯有効に生きなければなりません。有効に生きようとする事を妨げる唯一の理由は、あなたの過去の痛みです。痛みは本當の役割を取り去ります。私はそんな役割ではない。私は違うというなら、あなたは生態系の中の役割を果たすことができますか？虫は傷にわきます。元気な人間にハエが来て卵を産みますか？私たちが死にゆくからだを持っているならウイルスは敵ですが生きるべき体ならこんなウイルスは全く敵ではなく味方です。あなたの夫、妻、家族は敵ですか？敵ではありません。あなたが生きようとするなら味方になるのです。

使徒の働きには2通りの生き方を選ぶ人が出てきます。

①素直に聞いて行こう②嫉妬に駆られて偽りの証言をたててまで人を壊そうとする人

どちらを選びますか？傷に基づいてできた自分を生かすことを止めましょう。

### いのりから

あなたは同じ生き方を持って生きていいのですか。私たちは知るべきことがあります。

①あなたを造った人がいるということ。②あなたを造った人があなたにはいけないといったことがある。この2つのことを知る必要があります。そうすればあなたはあなたの存在意義に生きることができます。存在意義に生きる人はいかなるウイルスをもはねのける力があります。そして死ぬことも、多くの栄光をあらわして人々に影響をもたらすでしょう。ですから、あなたの過去に生きることをやめること。自分を自分で評価しないこと。あなたを評価するのはあなたを造った人です。あなたの役割を決めるのはあなたを造った人です。私たちはそれに従います。だからこそ、あなたを造った人を知って下さい。

(要約者:澤口明子)

(2020年8月30日)